

# 令和6年度 さいたま市 英語教育改善プラン

## 目標

CAN-DOリストやICT機器の活用をさらに推進し、言語活動を通して、英語で積極的にコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す。

### 1. 目標に対する現状

#### 改善が進んだ点

①「CAN-DOリスト形式による学習到達目標の設定、公表及び達成状況の把握」すべてで100%に達している。  
(R4:100%⇒R5:100%)

②「50%以上の授業で、児童が1人1台端末等を活用した割合」が昨年から6.4%増加した。  
(R4:59%⇒R5:65.4%)

#### 未だ改善が必要な点

①第5・6学年の「授業中、75%以上の時間、言語活動を行っている割合」が昨年から4.3%減少した。  
(R4:67.8%⇒R5:63.5%)

②「小学校教員の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合」が目標（32%）に達していない。

### 2. 要因分析

①低・中・高学年ごとの到達目標を例示し、各校で活用できるようにしているため、すべてで100%に達していると考えられる。

②学校訪問や研修会等で個別最適な学びを推進するために、1人1台端末の活用例を具体的に示したことで、改善したと考えられる。

①「グローバル・スタディ」を指導する経験の浅い教員への支援が不十分だったため、各校での具体的な実践につながっていないことが要因と考えられる。

②一定の英語力を有する志望者は、小学校英語教育推進特別選考（専科教員）に流れてしまうため、一般の小学校教員の新規採用者での割合は低い。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

①12年間の学びの連続性の構築  
小・中の円滑なカリキュラム接続を図り、9年間の一貫した英語教育を推進する。また、小・中合同の「グローバル・スタディ」研修会を開催し、各学校における「グローバル・スタディ」等英語教育の一層の充実を図る。

②個別最適な学びの一層の推進  
「50%以上の授業で児童が1人1台端末等を活用している割合」の目標値を80%とし、1人1台端末やデジタル教科書等について、学校訪問や研修会等にて、具体的な活用方法を指導、助言する。

①本市独自の英語教育「グローバル・スタディ」の推進  
授業公開や協議会、初任者研修等で、実際の授業をもとにして具体的な指導を行い、令和6年度より全面改訂した小学校の「グローバル・スタディ」カリキュラムを各校で実践し、言語活動をより一層充実させる。

②一定の英語力を有する受験者への加点制度の実施  
引き続き、加点制度を実施し、小学校教員の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合の向上を図る。さらに、中学校の英語教員を対象とした研修会等に参加できる環境を整えたり、市教育研究会の参加したりすることで、小学校教員の英語力を高めていく。

# 令和6年度 さいたま市 英語教育改善プラン

## 目標

本市独自の英語教育「グローバル・スタディ」の更なる充実を図り、言語活動を通して、英語で積極的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成。

○ CEFR A1レベル相当の英語力を有する生徒の割合（R5：88.4%⇒R6：89.5%）

### 1. 目標に対する現状

#### 改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が令和4年度と比べて、1.8%増加した。  
(R4:86.6%→R5:88.4%)

②全ての学校において、授業の半分以上の時間で、生徒の英語による言語活動を実施できている。

#### 未だ改善が必要な点

① 令和5年度全国学力・学習状況調査の平均正答率が53.3%（全国1位）であったが、4技能のうち「話すこと」の平均正答率が他と比べて低かった。

② 「ICTを用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動」を、授業中に半分以上、実施している割合が40%にとどまっている。

### 2. 要因分析

①本市独自の小・中学校9年間の英語教育「グローバル・スタディ」において、小学校での指導の上に、中学校での指導が効果的に積み重なった結果であると推察できる。

②英語教育ワーキング・グループを設置し、カリキュラムの検証や改訂を行い、質の高い授業が提供できるような環境を提供している。

①言語活動は十分に行えているが、個々の生徒の達成状況を適切に把握した指導改善がされておらず、フィードバックの方法にも要因があると考えられる。

②授業においては、発表ややり取りなどの言語活動が充実している。言語活動においても、ICTを活用すると、さらに生徒の英語力を伸ばせるという認識が不十分である。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

①本市独自の英語教育「グローバル・スタディ」の充実  
中学校教員が、小・中連携を見通した指導ができるよう、小学校と中学校の教員合同の研修会を実施する。小グループでのデモレクソンを行い、小学校での指導内容を深く理解し、小・中9年間を一貫した教育課程の強みとよさをさらに生かす。

②カリキュラムの改訂による質の高い授業の推進  
教科書採択に合わせて、英語教育ワーキンググループによるカリキュラムの改訂を行い、生徒の言語活動がさらに活発に行われるような質の高い授業を推進する。

① 指導と評価方法の工夫・改善  
生徒の学習成果を可視化・分析する効果測定を引き続き実施し、エビデンスを基にした研修会を通して、指導法の改善を推進する。さらに、生徒一人ひとりの見取りをより丁寧に行うため、スコアレポートを活用し、個々の生徒の状況を正確に把握する。

②指導力向上研修会の実施  
グローバル・スタディ科教員を対象とした研修会を実施し、英語力・指導力の向上を図るとともに、授業の言語活動におけるICTの具体的な活用方法を示し、指導助言する。

# 令和6年度 さいたま市 英語教育改善プラン

## 目標

豊富なコミュニケーション活動を取り入れた授業や授業外の活動による生徒の英語力の育成。

○CEFRのA2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を98%にする。(R5:97.5%⇒R6:98%)

○卒業段階でCEFRのB1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を54%にする。

(R5:52.5%⇒R6:54%)

### 1. 目標に対する現状

#### 改善が進んだ点

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が改善した。

R4:96.7% ⇒ R5:97.5%

②CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する教員の割合が改善した。

R4:88.3% ⇒ R5:97.8%

#### 未だ改善が必要な点

①CEFR B1レベル同等以上の英語力を有する生徒の割合が低下した。

R4:81.1% ⇒ R5:52.5%

②授業における、生徒の英語による言語活動の割合が低下した。

R4:95.5% ⇒ R5:78.6%

### 2. 要因分析

①市立中学生のCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が改善し続けている。そのため、高校開始段階で高くなっている英語力を維持し、高校3年までにA2レベルに達していると考えられる。

②教員採用試験において、CEFR B2レベルの資格試験保持者に加点をしているため、新採用教員の資格保有率が向上したと考えられる。

①大学入試演習など、英語の運用能力よりも、語彙・文法などの個別の知識を重視する指導の傾向が強まった。

②①の影響で、英語科教員が日本語で、講義型の授業をする時間が多くなり、生徒の言語活動の時間が減少した。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

① A2レベル相当以上の生徒の割合の向上  
市立高等学校教員による市立中学校の授業参観を実施し、「12年間の学びの連続性」及び中高の連携を意識した指導改善を図る。A2レベル相当に到達していない生徒の状況について、学校と連携して実態を把握し、改善策を模索する。姉妹都市・姉妹校との交流など、授業外でも、英語によるコミュニケーションが必須となる場面を多く提供できる学校行事や事業を推進し、生徒自身の英語力向上への動機づけとする。

② B2レベル相当以上の教員の割合の向上  
採用時だけでなく、今後も多面的に推進する。

① B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合の向上

②生徒の英語による言語活動の割合の向上  
言語活動の目的、場面、相手などを明確に設定し、身につけた知識・技能を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用する資質・能力を育成する。具体的には、4技能のパフォーマンステストを含む単元計画や、指導と評価の一体化を意識した授業計画などについて、指導助言する。

さいたま市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	100	97.5	98		100		100		100		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	82.5	52.5	54		85.5		87		88.5		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	78.6	100		100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	35.7	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	80	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	100	97.8	100		100		100		100			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	78.6	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	89	88.4	89.5		90		90		90		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	100	100		100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	100	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	56.3	80		80		80		80		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	100	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	100	100	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100